

# 闘春



# こくろう秋田

国鉄労働組合  
秋田地方本部  
(秋田市中通  
7-2-21  
018-832-3775)

発行責任者  
瀬下 一司  
編集責任者  
佐藤 浩一

## バインドを固く、確実な前進の年に！

執行委員長 瀬下 一司

組合員、家族のみならず。

新年明けましておめでとうございませう。  
二〇〇九年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

アメリカを震源地とした金融と経済危機が世界中に広がっています。日本でも自動車、電機などの輸出産業から全産業に生産縮小とリストラが広まっています。そのしわ寄せは期間工や派遣労働者の削減、下請け単価の切り下げなどという形で現れてきており、さらに国民生活を直撃するという深刻な状況を迎えています。

福田首相の政権投げ出しの後を引き継いだ麻生政権は、山積みする重要課題に対し有効な打つ手を見出せず、支持率も低下の一途をたどっています。それだけに、今度の総選挙は政治転換に直結するものとして大きな意義のある闘いとなることは間違いないと思います。

◆JR東日本の中長期経営計画「グループ経営ビジョン2020」が発表されましたが、その内容は、利益第一主義に基づく徹底した「合理化」による「企業競争力の強化」をめざすものとなっています。そのため、業務委託や契約社員化の拡大、機械化による省力化などの施策が一層進められていることは明らかです。団塊世代の大量退職による技術力低下が懸念されている中で、こうした施策の推進によって労働者と地域利用者との矛盾は避けられません。

「職場総点検運動」と「安全総点検運動」を柱にした職場分会活動がいよいよ重要になってきています。地方本部の大量脱退と新組合結成から七年になります。もう一度闘いの原点に返り、職場の中に要求の担い手としての国労の姿を鮮明にするような職場分会活動の活性化に向けて全力をあげていきたいと考えています。

◆一昨年のJR東日本との六一事件一括和解、今年三月のJR貨物における和解が成立以降、国労加入への流れは確実に前進しています。東日本本部大会以降、今日まで十一名が国労に加入しました。

職場における組合間差別と不公平感の是正と合わせて、国労加入に向けた意識的な取り組みについても強化していくかなければなりません。

◆二十二年目を迎えたJR不採用問題の早期解決については、鉄建公団訴訟控訴審で南裁判長より裁判所以外での話し合いについて提起がされました。それを受けて冬柴大臣(当時)が「誠心誠意努力する」との発言を行いました。しかし、その後の内閣改造と福田政権投げ出しという混乱の中で政治の場における具体的な動きとはなっておりませんが、これまでの運動の到達点として確認することが出来ます。

また、「10.24中央集会」を事件の早期解決意思を内外に示すだけでなく、総選挙勝利総決起集会として大きく成功させました。解決に向け、4者4団体の団結を崩さず、関係機関への要請行動や世論喚起に向けた大衆闘争をやりきる事が大事です。

私たちが取り組むべき課題は多岐にわたっていますが、団結のバインドをガッチリ固め、着実な前進が勝ち取るよう奮闘する決意です。

組合員、家族のみならずが今年も一年間健康でありますように！  
本年もご協力よろしくお願い致します。

## 新年あけましておめでとうございます

- |        |       |
|--------|-------|
| 執行委員長  | 瀬下 一司 |
| 執行副委員長 | 伊藤 政利 |
| 執行副委員長 | 神谷 長一 |
| 書記長    | 渡邊 敦  |
| 執行委員   | 久米 竜一 |
| 執行委員   | 小林 昭宏 |
| 執行委員   | 高橋 毅  |
| 執行委員   | 佐藤 浩一 |
| 会計監査員  | 保坂 純一 |
| 会計監査員  | 佐野 誠司 |
| 書記     | 渡辺 敏男 |
| 書記     | 今野 純子 |

# オール秋田A、堂々三位入賞

## 第十三回東日本本部マラソン大会

十一月十五日、天候曇り、佐賀保男選手曰く「気温十七度の走りやすいコンディションの中、第十三回東日本本部マラソン大会が開催されました。」

十一時三〇分から開会式が開催され、個人マラソン七名、駅伝には十八チーム延べ一九三名が参加しました。

東日本本部伊藤委員長の「1024中央集会は一万人を超える参加者で成功できた。これに続く形で地方での課題に取り組んでほしい」とのあいさつを受け、その後、昨年優勝の長野地本Aチームから優勝杯の返還、そして家族会の吉江敏子さんの選手宣誓で大会が開会しました。

十二時 5kmマラソンスタート  
秋田地本は飛び入りを含め九名が参加。小野雄志選手が一位と4秒差の1分50秒の一位でゴール。ラストの佐賀(幸)夫妻のゴール全員が完走を果たしました。

十三時 駅伝スタート  
第一走者の小野雅人選手の二位で流れを作ったA(つさぎ)チームは、各選手が終始安定した走りを見せ、アキアの小野雄志選手が見事三位でゴールを切りました。またB(カメ)チームも全員がそれぞれのベストの走りを見せ完走を果たしました。

全員がけがなく無事走り切り、その後の

地域間異動者激励交流会に突入となりました。

### 第2部は場所を変えて 地域間異動者激励交流会

十五時三〇分から場所を神田庄屋に移して恒例になった地域間異動者激励交流会が開催されました。地域間の参加は残念ながらありませんでしたが、伊藤東日本本部委員長や、加賀谷靖さんの元職場である上野駅からの三名の参加を含め二一名で開催されました。相田キヤプテンの乾杯で始まり、伊藤委員長からは優勝した長野Aチームは合宿して参加してきた。秋田もダブル小野さんに続く選手が出てくれば、金、銀に届く。他チームには協力会社の社員や東労組組合員が参加しているところもある。今日も役員が見張っている状況があった。北京オリンピック同様スーパースには政治の壁はない組織拡大をして、優勝を狙ってほしい」とのあいさつがあり、大会を振り返りながら、大いに盛り上がりました。そして締めは加賀谷さんの「ファイヤー」でお開きとなり、それぞれが帰途に着きました。

十一月十六、十七日の二日間に行き、熱海の岡本ホテルで本部主催の第4回組織強化拡大経験交流会が開催されました。全工団本部と貨物協議会、自動車協議会、テレコム協議会から合計一七三名が参加しました。

本部田中副委員長のあいさつ、濱中書記長からの行動提起を受け、各地での組織拡大への取り組み、経験などから、今後の課題について交流を深めました。

秋田地本からは三名が参加しました。  
参加者からの感想が届いていますので、掲載します。

#### 地本執行委員

高橋 毅

成果が出ている地方からは「本当に頑張っている姿」が伝わってきた。日々の業務を完全にやり遂げているようだ。チラシ、パンフも手作りでいて、自分たちで作ることの重要性、全体で取り組むことの意義の大きさを感じてきた。加えて、自分が「できる」ことをやるも大切と思い、私自身が「できる」として、「ポケット版就業規則」「ポケット版労基法」の制作に取り組んでい

## もう一人の仲間を国労へ！

### 第4回組織強化拡大経験交流会

最後に、何年かぶり「国鉄労働組合歌」と、青年部の替え歌、カンの「愛は勝つ」には感動した。

《秋田総合車両センター支部  
田口 康生》

昨年に続き二回目の参加となりました。報告では、この四年間で状況が大きく変わり加入者も増えてきていますが、運動のテンポからすれば大きな流れを作らなければならぬとして、具体的な提起が出されました。

《貨物分会 笹嶋 岩秋》

北海道、東日本、西日本などから国労への新採加入の報告がありました。特に北海道輪西車両所での経験交流では「ころからのつながり、仕事などを通じての拡大に自分なりに今一度考えさせられるものがあった。」

分散会で若い組合員から、国労の人は人間が大きく仕事ができるだけのやさしいおっさんではダメだとの声もあつた。

意見を聴いていると他労組との飲み会やレクなどを通じてよくつながりを持っていることを感じています。

秋田では二名の拡大以後進んでいません。仲間を増やすためどうするか全体で意見を出し合い運動していくことが必要と思う会議でした。組織拡大用のポスターを組合員から募集したらどうですか？

労組も申し入れはしていますが、攻撃はほとんどなくなっているようです。また、活発な分会の行事に他労組の人も参加し、時間を

かけて信頼関係を作ったりしていること、仕事に疲れて自ら国労に入りたいと言ってくる人など様々な実践例が発言されていました。加入用紙を携帯し、ためらわず呼びかけることが大切だと痛感してきました。